

しょうがっこうていがくねん《1・2年生》のみなさんへ

なつ休みおすすめ本リスト

登別市立図書館 [2013年版]

	しよめい さくしやめい しゅっぱんしゃ	ないよう
えほん	<p>「クリストファーのしあわせないちにち」</p>  <p>バレリー・ ゴルバチョフ 作 三原 泉 訳 偕成社</p>	<p>うさぎのクリストファーは、ヤギ先生から、かずのかぞえかたをおそわりました。なんでもかぞえられることがたのしくて、クリストファーは、いつでもどこでもかずをかぞえます。</p>
えほん	<p>「だいくとおにろく」</p>  <p>松居 直 再話 赤羽 末吉 絵 福音館書店</p>	<p>なんどかけても、はしがながさされてしまうため、いちばんうでのいい「だいく」がしごとをたのめました。川を見にきた「だいく」のまえに「おに」があらわれて、「目玉をよこしたら、はしをかけてやってもいい」といって、ほんとうにはしをかけてしまいました。こまった「だいく」は…。</p>
えほん	<p>「だいじょうぶだいじょうぶ」</p>  <p>いとう ひろし 作・絵 講談社</p>	<p>しんぱいしなくても「だいじょうぶ」。むりしなくても「だいじょうぶ」。それは、ちいさかったころのぼくをいつもたすけてくれた、おじいちゃんのやさしいおまじない…。</p>
えほん	<p>「ぼくがラーメンたべてるとき」</p>  <p>長谷川 義史 作・絵 教育画劇</p>	<p>ぼくがラーメンたべてるとき、となりでミケがあくびをしました。となりでミケがあくびをしたとき、となりのみっちゃんがチャンネルをかえました…。とおくとおくはなれたくいで、いまなにがおこっているのでしょうか？ おなじこの空の下で。</p>
えほん	<p>「もっとおおきなたいほうを」</p>  <p>二見 正直 作・絵 福音館書店</p>	<p>川でさかなをとっているキツネをおいはらうため、王さまはたいほうをうち上げました。するとキツネは、もっと大ききたいほうをもってくるではありませんか。王さまとキツネのたいほうくらべは、どんどんエスカレートして…？</p>

	しよめい さくしやめい しゅっぱんしゃ	ないよう
としよ	<p>「雨あがり」</p>  <p>稲本 昭治 作 福田 岩緒 絵 文研出版</p>	<p>あそびに出かけようとしたたかしは、おかあさんにしゅくだいをするようにいわれ、とめられてしまいました。ともだちとやくそくをしたといっても、きいてくれないおかあさんに、たかしは…。</p>
としよ	<p>「なぞなぞのすきな女の子」</p>  <p>松岡 享子 さく 大社 玲子 え 学研</p>	<p>なぞなぞあそびの大すきな女の子とはらぺこのオオカミが、森でばったり出あいました。うまさうな女の子だぞと、したなめずりしたとたん、女の子になぞなぞを出されて、オオカミは大よわり。さあ、どんななぞなぞでしょうか？</p>
としよ	<p>「はじめてのキャンプ」</p>  <p>林 明子 さく・え 福音館書店</p>	<p>小さいなほちゃん、ことしのなつはじめて大きいおにいちゃんやおねえちゃんといっしょにキャンプにつれていってもらえることになりました。にもつもじぶんでもつし、しごともやるし、すぐなかないし、一人でトイレにもいくというやくそくで…。</p>
としよ	<p>「はだかのおうさま」</p>  <p>H. C. アンデルセン 作 イブ・タルレ 絵 木村 由利子 訳 偕成社</p>	<p>みやこにやってきたふたりの「はたおり」が王さまにつくったふくは、「かしこい人」にしか見えないぬので、できていました。でも、王さまがそのふくをきて、まちをパレードするとともに、「王さまははだかだ」といわれて…。</p>
としよ	<p>「れいぞうこのなつやすみ」</p>  <p>村上 しいこ さく 長谷川 義史 え PHP研究所</p>	<p>なつのあつい日、れいぞうこがこわれてしまいました。こまったかぞくがしらべているといつのまにかれいぞうこに、目とはなとでっかい口ができていました。そして、「わたしもなつ休みをもらって、プールへいってみたい」そういったのです。</p>